

キャラクター名
稲瀬悠仁(アーセナル)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ウロボロス		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	風来坊
	オプション		年齢	19	性別	男
覚醒	感染	衝動	飢餓	初期侵食率	43	%
出自	天涯孤独	経験	裏切り	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	0	0			3	行動値	9
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	9
精神	3	0	0			3	戦闘移動	14
社会	0	0	1			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
攻撃	射撃	9r+5		1d+7		マイナー効果使用
攻撃(80%)	射撃	20r+5		1d+7		ホートデバイス、コインの効果使用
攻撃(100%)	射撃	24r+5		1d+7		ホートデバイス、コインの効果使用
攻撃(10000%)	射撃	36r+5		1d+7		100%にフルインストール追加。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイマス消費
傍らに立つ影	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
原初の白:ホートデバイス	5	9	セットアップ		自身	自動	80↑	
効果: 感覚のダイス+ [LV*2]、シリア3回								
コンセントレイト:ブラックドッグ	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム		
効果: C値-LV(下限値7)								
アムズリンク	3	2	Xジャー	武器	-	射撃		
効果: 判定ダイス+LV								
隆起する大地	5	3	オート	至近	範囲(選択)	自動	Dロイス	
効果: 1d+LV*3のダメージ軽減、ラウンド一回								
雲散霧消	5	4	オート	至近	範囲(選択)	自動		
効果: ダメージ軽減LV*5、ラウンド一回								
原初の紫:異形の加護	1	4	オート	至近	自身	自動		
効果: ダメージ軽減+3d、ラウンド一回。暴走時は無制限。								
原初の黒:不壊の城壁	3	7	オート	至近	範囲(選択)	自動	100↑	
効果: ダメージ軽減LV*10、シリア一回								
原初の灰:異形の捕食者	3	8	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果: ダメージ算出直後、(LV+2)Dのダメージ軽減し、軽減した分を攻撃力に変換。シリア一回								
マグネットムーブ	1	3	インシアブ	LV*10m	単体	自動	80↑	
効果: シリア一回、対象を自分のエンゲージに引き込む								
フルインストール	3	5	インシアブ	至近	自身	自動	100↑	
効果: あらゆる判定ダイス+LV*3。シリア一回								
ストライクチップ	1		エーク	10m	単体	射撃		
効果: マイナー使用で判定ダイス+2								
サイドリール	1		エーク					
効果: 射撃攻撃の攻撃力+1d10、達成値+3								
	★							
効果:								

UGNイリイガルである御門大学の学生、コードネームはアーセナル。機械化した体での射撃が得意なありふれたエージェント。人は良いが賢くはない。

…というのは、表の顔。実際は評議員直属組織「ZEUS」のエージェントの一人。元々は両親をジャームによって失い、UGNのとある支部で活動していたチルドレンだった。しかし、とある事件において、支部と恩師、そして大切な友人を失い心に大きな穴を作る。失意の中で旅に出た彼だったが、旅に出た先でもジャームによる事件に遭遇する。もちろん、心を失った彼がまともに戦えるわけもなく敗北、被害は拡大の一途を辿る。自身と周りの人間の死を悟ったその時、彼の脳裏に友人のとある言葉を思い出す。

『難しいことは考えなくていい。マックに行ってお前は愚痴でも何でも言う、俺はそれを聞いてやる。俺らに出来るのはその程度だよ』

そうだ、あの時点で自分の心は救われていたのだ。難しいことは考えなくていい、思考をシンプルに…すると彼の心の穴は見る見るうちに塞がっていく。「俺はアイツみたいに強くない。所詮は手の届く距離しか守れないちっぽけな人間だ。それでも、この手が届いて誰かを守れるなら……俺は迷わず手を伸ばしたい!」

使命とかそんなものは関係なく誰かを守りたい、あの時伸ばせなかった手をもう一度伸ばせるなら…そのような彼の想いに応えるかのように、彼のシネグライドは異常反応を起こす。突如として、影が別の人型を取り動き始めたのだ。その影は巨大化し、彼の周りの人々を覆い攻撃から守り抜く。新たに覚醒したばかりのウロボロスの能力を遺憾なく発揮し、奇跡的に被害者を出すことなくジャームを討伐。UGNIエージェントとして完全復活を果たした彼は、紆余曲折あって現在の地位に就く。

冷静沈着な二枚目として飄々と振舞うが、それはあくまで彼が思い描く強い人物を背伸びして演じているだけ。素はややヘタレで卑屈。そのため、年少組に対